

太陽光発電設備を導入

新・県立淡路病院

県病院局は、洲本市塩屋に建設中の県立淡路病院に、エナジーバンクジャパン（EBJ、大阪市）の太陽光発電設備を導入することを決めた。12年間間は設備をリースする方式のため県の初期投資が不要で、県が直接設置する場合と比較して3割のコストダウンが可能になる。1月中旬に正式契約し、建物完成後の2013年1月に稼働開始予定。

太陽光発電設備は出力150キ・ワ。病院で必要な電力の数％程度という。

県と淡路島内3市が国の指定を受けた「あわじ環境未来島特区」で、エネルギーの自給率を

上げるための関連事業として計画された。

病院局によると、契約ではEBJが設備を設置、運営し、県は発電量に応じた料金をEBJに支払う。

民間からリース、4700万円削減

累計発電量が計画（164万1300キ・ワ時）に達すると契約が終了し、設備の所有権は県に移転される。直営の場合と比べ、約4700万円の削減効果があるという。

ほかに、EBJが別の業者に設備のリースや設置工事、保守などを再委託する場合は、県内企業との契約に努めるという内容も契約に盛り込まれる。

県立淡路病院は、現病院（洲本市下加茂）が老朽化して手狭になったために新築移転し、13年度に開院予定。循環器、消化器、周産期の専門センターと地域救命救急センターが設置され、病床数は441床。